

看護学教育研究支援センター

佐賀大学医学部附属看護学教育研究支援センター

センター長：長家智子（看護学科教授）

副センター長：藤満幸子（附属病院看護部長）

佐賀大学医学部附属看護学教育研究支援センター（以下センター）は、教育実践支援部門、人事交流部門、国際交流部門の3つの部門に分かれ、佐賀県内の看護職者の教育・研究支援を行っている。

本年度は、従来の支援事業に加え、佐賀県が主催した看護教員養成講習会の講師や研究支援も行った。

また、佐賀県看護職員キャリア形成システム支援事業による補助金の交付を本年度・来年度の2年間受けることとなり、補助金事業として看護職者が自由な時間に学習できるe-ラーニングのシステムを立ち上げることになった。県内看護職者の希望調査に基づき希望の多かったコンテンツから作成を開始し、来年度の配信開始に向けた準備を進めた。さらに、県内看護職者向けに大学主催で、「退院支援について」「特定行為に係る看護師の研修制度は創傷医療をどう変えるか？」の講演会を開催し、好評を得た。

I. 教育実践支援部門 責任者 古賀明美

佐賀大学医学部附属看護学教育研究支援センター（以下センター）の教育実践支援部門は、部門責任者を含め、医学部看護学科教員14名と佐賀大学医学部附属病院看護部看護師2名が担当している。本部門では、佐賀県内で教育・指導、研究、実践に携わっているすべての看護職を対象に、研究支援と継続教育を行なった。

1. 継続教育支援

今年度は、生涯学習の一環で、大学院の科目（2科目）を聴講したものが1名あった。

教育実践支援部門は継続教育プログラムとして「小児看護エキスパートナース養成講座」には37名（2017年2月時点）、「第2回産後フォーラム」には総数87名（このうち41名は保健医療、教育、子育て支援関係者）が参加した。看護部主催の「平成28年度スキルアップ研修会」は18回開催され1,113名が参加し、スキルアップに繋がった。そのうち院外受講者78名であった。また、「糖尿病医療における専門者育成」では8名の糖尿病コーディネート看護師を育成した。

現場の求める内容に沿って看護学科の教員や医学部附属病院看護部の看護師が病院や学校、看護協会、助産師会などへ出向き、研修や講演などの講師を務めている。今年度は、講習会・研修会への講師の派遣139件、教育対象者数のべ人数2,926人（佐賀県内2,240人、県外686人）となった。

本年度は、佐賀県健康福祉本部と連携し県内の小規模病院や診療所で働く看護職に向けたe-learningシステムの開発を進めている。現在、e-learning教材の「感染対策」「フィジカルアセスメント」を作成中である。さらに、センター主催で2つの看護職の実践レベルアップ研修を企画した。

2. 研究支援

平成27年度からの継続12件、平成28年度の新規申請21件、合計33件に対応した。そのうち、18件は院内発表、7件は院外発表を行い支援終了となった。さらに5件が、次年度に院外発表を予定している。平成29年度までの継続申請希望件数は5件である。平成27年度に研究支援した中から1件が看護系の学術雑誌に論文が掲載されるなど、徐々に研究活動が発展している。

II. 人事交流部門 責任者 田淵康子

人事交流部門は、部門責任者を含めて看護学科教員 8 名と附属病院看護部 1 名の合計 9 名が担当している。本部門では、相互のキャリア向上を目指して、看護学科教員との人事交流を支援する。

平成28年度は、佐賀市立富士大和病院の看護師 5 名が附属病院との人事交流を行っている。

今後も地域の病院との活発な人事交流を進める予定である。

III. 国際交流部門 責任者 新地浩一

国際交流支援部門は、看護学科教員 5 名、佐賀大学医学部附属病院看護部職員 1 名の合計 6 名で運営されている。平成28年度には、以下の活動を行った。

1. 7/11～7/18の期間に、台湾の輔仁カトリック教大学看護学部から看護学科 2 年生 4 名が、佐賀大学医学部を訪問し、夏季交換留学を実施した。
2. 9/1～9/8の期間には、佐賀大学から看護学科 4 年生 4 名と教員 1 名が、台湾の輔仁カトリック大学看護学部および大学関連病院を訪問して、有意義な研修を実施した。
3. 8/4～8/14の期間にはパラオ共和国にて、大学院生 2 名（看護師）の海外での医療支援活動をサポートした。（Pacific Partnership2016への参加による、官民合同の医療協力活動である）
4. 来日中のインドネシア人看護師候補者 1 名（佐賀県在住者）の学習支援活動として、看護学科の教員および大学院生が佐賀大学に講義の聴講に来た看護師候補生に対して、3 科目の学習のサポートを実施した。また、看護師国家試験の受験指導を含む学習支援も行った。

原著論文

- 1 山口今日子, 山口真由美, 吉田ひとみ, 本岡千佳(佐賀大学医学部附属病院, 研究支援:熊谷有記): SHEL モデルを用いた慢性期病棟における内服薬誤薬の背景要因の分析. 日本看護学会論文集. 看護管理. 46: 368-371, 2016.

報告書

- 1 SUN-GO フォーラムさが実行委員会 佐藤珠美, 中野理佳, 中河亜希, 榊原 愛, 富崎祥子, 中牟田静子, NPO 法人 poco a bocca: 第 2 回 SUN-GO フォーラムさが 産後の危機を乗り越えろ! ~夫婦を最強のチームに~ 実施報告書, 2016.

学会発表

国内全国規模の学会

- 1 *公文孝子, 岩橋好子, 山口真由美, 藤満幸子(佐賀大学医学部附属病院, 研究支援:長家智子):「自己健康管理促進準備状態」使用の現状と課題. 第22回日本看護診断学会. 2016, 7, 2-3. 第22回日本看護診断学会学術大会プログラム・抄録集 21, 2, 127-128.
- 2 *大浦真治, 石橋尚子, 中川龍治, 藤本裕二(肥前精神医療センター, 研究支援:藤本裕二):精神科病棟で勤務する看護者の身体合併症看護に対する苦手意識と関連要因について. 第5回日本精神科医学会学術大会. 2016, 11, 16. 第5回日本精神科医学会学術大会プログラム・アブストラクト, 264.
- 3 *岡登志子, 長家智子, 江頭恵美子, 清松和子, 川崎美紀子, 植村 藍(佐賀大学医学部附属病院, 研究支援:長家智子):看護記録監査による看護記録と看護師の意識の変化. 第22回日本看護診断学会. 2016, 7, 2-3. 第22回日本看護診断学会学術大会プログラム・抄録集 21, 2,

101-103.

- 4 *山口今日子, 山口真由美, 山田つや子, 古野龍也(佐賀大学医学部附属病院, 研究支援:熊谷有記):
循環器疾患患者の内服管理方法変更後の誤薬発生要因. 第47回日本看護学会-慢性期看護. 2016,
11, 10-11. 第47回日本看護学会-慢性期看護-学術集会 抄録集 46, 289.

地方規模の学会

- 1 *坂本典子, 鶴田弥生(佐賀大学医学部附属病院, 研究支援:長家智子):口腔ケアアセスメントガイドの有効性の検討. 第26回集中治療医学会九州地方会. 2016, 6, 25. 67.
- 2 *川原研太, 宮崎恵美子, 田竈康洋, 末次典恵(佐賀大学医学部附属病院, 研究支援:末次典恵):ICUにおける生体情報モニタアラームの実態調査. 第26回集中治療医学会九州地方会. 2016, 6, 25. 68.
- 3 寺野幸子, 中河亜希, 榊原 愛, 中牟田静子, 佐藤珠美:産後の母親と父親のニーズに対応したサービスを考える. 第20回佐賀母性衛生学会学術集会. 2016, 6, 11.

研究助成等

職名	氏名	補助金(研究助成)等の名称	種目	研究課題等	交付金額(千円)
教授	長家 智子	佐賀県	看護職員キャリア形成システム支援事業		2,621